令和６年度　前原東中学校区事業（怡土小・波多江小・前原東中）

実践交流会職員研修　報告書

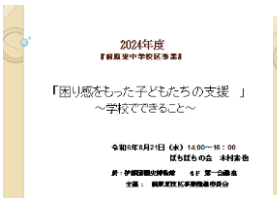
令和６年８月２１日（水）14：00～16：00

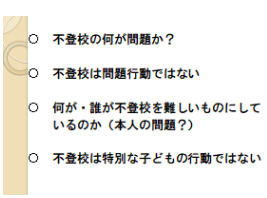
講師：「ぼちぼちの会」会長　木村 素也
講演：『　困り感をもった子どもたちの支援　』～学校でできること～

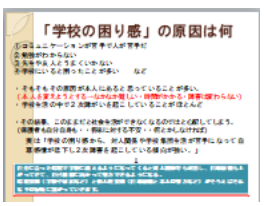
令和６年８月２１日（水）１４時から糸島市立伊都国歴史博物館会議室で研修会が実施されました。前原東中学校区（怡土小・波多江小・前原東中）の先生方約 105 名が参加されました。講師は私「ぼちぼちの会」会長の木村素也でした。

14:00～14:50（50 分）講演　　14:50～15:00　（10 分）休憩
15:00～15:30（30 分）質問に応じた講話　15:30～16:00　（30 分）感想・意見の交流

前半の講演の中で、①不登校の現状と課題②不登校の何が問題か？③学校で困り感を持つ子どもに必要な対策は？④状況に応じた学びの場を考える⑤「学校の困り感」の原因は何。⑥具体的な対応の例などについてお話しました。
特に子どもたちは集団社会においていかにしたら「困り感」を少なくすることができるのかを学ぶ場こそ「学校」であり、自立のスキルを学ばせる場であることを強調しました。2 時間ほどの限られた時間ではありましたが、先生方もメモを取るなど熱心に研修を行われました。後半は質疑応答など日頃の悩みを出し合いながら助言などをさせていただきました。今後とも連携を取りながら、対応を取らせていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。







実践交流会子応援のアンケートの感想　2024.8.21

たいへんよかった　　不登校について、担任であれば他の子供と同じように来て欲しいと願っていろいろ手立てを考えたくなりますが、それは教師の思いであって、その子が将来生きていくための生き方を学んでいけるようにしていくことが大切なのだと思いました。思い返せば、担任する子供たちは、担任の私が思い描く姿に近づこうと一生懸命だったような気がします。本当にそれがベストだったのか。その子にとって 1 番なのは何なのか、問い続けていこうと思います。貴重なご講演ありがとうございました。

よかった　　様々なエピソードを聞けて、とても興味深かったです。子どもがしたいことを自分で選択するためには自分自身を知ることが大切だと思いました。その好きなこと、得意なことは何かを見つける場所が学校であるためには、安心する場所である必要性を感じた。教員として、子どもが興味を持っていることを理解し、自立に向けて子どもと一緒に考える支援者でありたいと思う。

よかった　　困り感をもった子ども達への支援…学校でできること。とても勉強になりました。子ども達の困り感は変わらない。しかし、慣れることはできる。環境を整え、困ったときの対応を学ぶことによって困り感を少なくすることはできる。という言葉がとても印象に残っています。様々な特性をもった子ども達がいますが、目の前の子どもが今できることをする。今できないことはしない。そして指導者ではなく支援者として待つ。とても大切なことですが、どうしてもせかしてしまうことがあります。前期後半、目の前の子ども達ひとりひとりとしっかりと向き合っていきたいと思います。

たいへんよかった　　本人の自尊感情を低くしないこと、本人の困り感を変えるのではなく、対応の仕方を学ばせるなど、これまで気づかなかったたくさんのことを学ぶことができました。

よかった　　教師は支援者であること、子どもに選択、決定させていくこと、そして、色々な選択肢があり模索していくこと等を改めて学ばせていただきました。

たいへんよかった　　困り感をもった子どもへの対応について、困り感をなくさないといけないと思っていましたが、「困り感に慣れる」「困り感を少なくする」という言葉を聞いて、ハードルが低く気持ちが楽になりました。学校は育てなければいけないと考えがちですが、困った時の対応を教えたり、自立するためのスキルを教える場だと考えると対応が明確に見えてきました。夏休み明けからしっかり子どもたちを見て対応していきたいと思います。

よかった　　長い目で成長を見守ることの大切さを感じました。

よかった　　「できることはする。できないことは今はしない」という言葉が心に残りました。今子どもたちが求めていること、感じていることを探りながら支援できたらと思っています。

たいへんよかった　　自分自身も、担任をもっているときに児童が不登校になった経

験があったため、色々と考えてしまうところがありました。しかし、自分一人が色んなことを考えたところで、結局はその子自身、その子の周りを取り巻く家族などの環境、色んな要因があるんだなと感じました。その中で、子どもに「自分で決めな」とざっくばらんにいうのではなく、子どもと一緒にその子自身の将来を見るという過程をしっかりと踏んだ上で選択、決定をしていってほしいなと思えました。本日はとても勉強になりました。ありがとうございました。

よかった　「自分で決める」…現在関わっている不登校兆候児童に対しての方針が、固まってきました。ありがとうございました。

たいへんよかった　自分の学級でも、いつも物事をスムーズにこなしている子が急に反抗してきたり何もしなくなったりすることがあり、悩みとなっていましたが、今回の講義を聞いて、その子なりの困り感を自分自身に気づいて欲しい合図だったのかなと今日の講義を聞いて感じました。そこで、子ども自身に選択させるという手段を取れればなども考えれました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

たいへんよかった　困っている子に対してどれだけ信頼関係が築けているかで、支援の内容や方法が広がることが実感できました。夏休み明け、再度一人一人と向き合っていきたいと思います。

よかった　指導者ではなく支援者としての心構えが大切と感じました。

たいへんよかった　学級の困り感をもった子どもの顔が浮かびました。できることをする、本人が決める、教師は支援者になることを肝に銘じて取り組んでいきたいと思います。

たいへんよかった　困り感をもった児童について、教師は指導者ではなく支援者として関わること、子どもたちの自尊感情を低くしないこと、不登校が子どもたちにとって不利益にならないようにすることが大切だということがわかりました。

よかった　不登校の子へ勉強をしなければならないよ、というスタンスで関わるのではなく、まずは将来をみすえて、勉強が本当に必要なのかを話し合って勉強をする目的を見つけることが大事だと思いました。
当たり前ではない一言を言う、という部分に大変共感致しました。
本日はありがとうございました。

よかった　事例検討会で困り感をもってる子の自己肯定感を上げる取り組みや、自立に向かう取り組みについて話し合いを行いましたが、今回の講話でも子どもの自己肯定感を上げることが大切だということを改めて感じました。苦手を克服させることばかりを意識するのではなく、その子が出来ることや自信に思ってる事を認めてあげる意識をもとうと思います。

たいへんよかった　当たり前ですが、信頼関係は自分から相手を信じる気持ちを表さなければ築けません。そのことを木村先生の多くの話から気付かされました。家庭環境が厳しい子供ほど、自尊感情が低いことを肝に命じて関わっていきたいと思います。

たいへんよかった　　木村先生の、子どもに対する見方、変幻自在な対応の仕方、人間性というか、考え方というか、そういうところで響くものがありました。正解はないんですけどね、というところから、常に子どもの実態を捉えて理解して、今、その子にとって安心で安全な提案をされているところが、素敵だなと思います。子どもの世界観を尊重されてるなと感じました。私もそのような姿勢でありたいと思います。

よかった　　できることを自分で探し、できないことは今はしないという考え方は大切だなと思いました。

よかった　　増え続けている不登校児について、社会全体が問題を掴めていないというところが、耳が痛かったです。教育現場は、生きる力をつけさせる場であるということを再認識しました。そのために、①個に応じた柔軟な対応、②てきないことは今はしない、③できないことで生まれる不利益を小さくすることを、心がけたいです。

よかった　　不登校について、学校に行かないことによって怒る不利益という視点が、私自身持っていなかった視点なのでとても新鮮だった。今後教師として働く中で、「自分で選択して決めることで、自分の人生の責任を持つ」ということをとても大事にしていきたいと思った。

よかった　　今後の対応に関してとても勉強になりました。前期後半から実践していきたいと思います。

よかった　　実践していこうと思った

たいへんよかった　　今できることをする　というスタンスに共感しました。

よかった　　自己決定の大切さを学びました。イヤイヤするのではなく、子どもが決めたことをサポートしたり、できることをさせ自信にすることで自尊感情に繋がるように支援して行きたいと思いました。

たいへんよかった　　支援者という言葉が印象に残りました。どうしても、教師主導で子どもを動かしてしまう、教師が喋りすぎてヒントや答えを与えてしまうことがあると感じていたので、その子どものためを思って、忍耐強く支援していけるようになりたいと感じました。

たいへんよかった　　不登校兆候の子どもを担任している中で、私が「ここまで頑張ろう」のラインを決めてしまっていることが多いなと感じました。もちろん、それで上手くいくこともあるけれど、全ての子がそうではないことを改めて理解させられました。また、この先色んな子どもと出会う中で、「できる」「できない」を子どもに決めさせ、子どもが「できる」と言った部分に関してはしっかりとさせて、「できない」部分はどんな支援ができるかを考えて、その子が「できる」ように支援していきたいです。

よかった　　できないことは今しない、何ができるかは本人が決めるということが心に残りました。その子が決めたこと、一生懸命したことを認めて自信をもつことができるようにしていきます。

たいへんよかった　　不登校で不利益をうまないようにする、ということと、指導者

ではなく、支援者になれということ、困り感に慣れることはできるということがとても印象に残りました。

たいへんよかった　　子どもの願いや目標に対してより的確な情報を教師が支援者として集め提示した中から児童が考え、選択し自己決定することこそが大切だと学びました。教師が知っている未来の正解を押し付けることなく自分で決めたことに責任をもたせながら実現可能なものを選択させてあげられる支援者になりたいと思いました。ありがとうございました。

よかった　　不登校の子どもに対して、「こうしなければいけない」と強要したり、「将来こうなるよ」と不安を煽るのではなく、情報を正しく与え、本人に選ばせて支援していくことが大切だとわかりました。

よかった　　自分がうけもっている小学科１年の児童を思い浮かべて聞いたが、なかなかむずかしいなあとかんじ、これからどうすべきかとても悩みます

たいへんよかった　　子どもの今ではなく、先、将来に目を向けることの大切さにあらためて気づきがあった講話でした。今後の子どもとの関わりや声掛けに生かしたいと思います。ありがとうございました。

よかった　　不登校支援について、新たな視点をもつことができた。子供が自分の事を自分で意思決定できるように、寄り添った支援が必要だと知ることができた。

たいへんよかった　　不登校のみならず、学校内や学級経営で大切にすべき視点が多く見受けられた。

たいへんよかった　　一人一人に応じた対応がとても大切であると感じた。できないことを無理矢理させようとしても、その児童からすると、嫌なことであるため余計そのことに嫌なイメージを持たせることとなるということを理解した。今、できることは何か考え、それに集中させることも時に必要であるということを知った。

たいへんよかった　　不登校傾向の子どもの見つめ方、関わり方について勉強になることがたくさんありました。本人が選んで歩んでいく力を育むことを大切にしていきたいと思いました。

よかった　　できることを子どもに選択、決定させ、できないことは今しない。ということが心に残った。不登校児童の実態は一人ひとり違うが、担任と連携しながら、関わっていきたいと思う。

よかった　　現時点でダメなように見えても、のぞみがあることがわかり、そのような声かけができると思った。

たいへんよかった　　不登校であることが悪いことではないという考えはそうであるべきなのに自分の中から抜けていた部分でした。また、学校に来させようと自分は考えていましたが、本当に大切な不登校児童の将来について考えるということを認識することができました。

よかった　　できること、できないこと、分ける。できることをしていく。不登校が

学びの不利益にならないようにする。など、これまでになかった視点をいただきました。ありがとうございます。

たいへんよかった　　目から鱗ばかりの講話でした。今"は"やらないという言葉はとても救いのある言葉だなと思いました。教師の立場だとなかなか言いにくいようなことや思いつかないこともありましたが、その子その子の将来を見据えて見定めて、必要な情報を与えることも教師として必要な役目だと思うことができました。今日はありがとうございました。

たいへんよかった　　今まで出会ってきたたくさんの子どもたちの姿を思い浮かべながら聞きました。
指導者ではなく『支援者』であるということ、子どもたちの前に立つとついつい忘れてしまうなぁと思いました。
不登校になりうる子どもたちだけではなく、困っている子どもたちに、自己決定をする力の必要性を改めて感じました。
同時に、すべての子どもたちに、情報を正しく選択する力もつけないと、ネット等にある情報などもすぐに鵜呑みにしてしまったり、自分の欲しい言葉をくれる人を簡単に信用して、最悪の場合、犯罪に巻き込まれたり…いろいろなことが起こりそうで怖くなりました。
不登校支援を中心としたお話でしたが、子どもたち一人ひとりへの支援の在り方を改めて考えることができました。

たいへんよかった　　不登校児童への支援の仕方がたくさんあることが分かりました。学校に行かないことで起こる不利益を考えて、出来ること・出来ないことを明確にして、出来ることを本人が決めてやってみることが大切だと感じました。教師は色々な手段・方法を提示して、児童が自己選択できるように支援していきたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。今後に活かしていきたいと思います。

よかった　　得意な事を伸ばすこと、今できないことがこの先も出来ないとは限らない事など、勉強になった。

たいへんよかった　　不登校児童の支援について、指導者でなく支援者として情報を与え、本人に決めさせることが大事という話がとても印象に残りました。

よかった　　不登校支援は、正しい情報をもって、歩み寄りながら「できることはする」という柔軟さが必要だと知りました。本人の意志を尊重しながら一緒に考えたいとおもいました。

たいへんよかった　　今できないことは今はさせずに、できることをさせることが重要だと学ぶことができました。

たいへんよかった　　不登校の生徒に対してマイナスイメージを教師がもって対応にあたると、生徒だけでなく、不安に思っているであろう保護者に対してさらに不安を強くさせてしまうと感じました。その生徒のできることに着目し、伸ばそうとする教師の支援がこれから必要だと改めて感じました。様々な事例を提供していただき、大変勉強になり

ました。ありがとうございました。

たいへんよかった　　指導者ではなく支援者という考え方はすごく納得しました。メジャーリーグとプロ野球のコーチの話がわかりやすかったです。今後の教員人生に生かしていきたいと思いました。

たいへんよかった　　これまで、不登校の生徒に対して「なぜ学校に来ないのか？」という問いを立てがちでした。しかし、今回の講演を聞き、生徒一人ひとりの置かれている状況は様々であり、一概に「なぜ？」と問いかけることはできないと気づきました。
特に印象に残ったのは、「生徒に必要性を感じさせる」という言葉です。学校に来ることの必要性を感じさせるためには、生徒の興味関心に合った学習内容や活動を提供したり、生徒が目標に向かって努力できるような環境を整えたりすることが重要だと考えます。

よかった　　選択をさせるといこと、自分にできることはして、できないことは今はしないといく言葉が印象的でした。

たいへんよかった　　不登校の子どもの話でしたが、私は、学校に来ているけれど勉強出来ない生徒や、無気力な生徒を事を考えました。困り感がある生徒への支援という手だてではきっと同じことですよね。色々と考えさせられました。

たいへんよかった　　体験談をもとに、不登校などの困り感を抱えた子どもへの支援の在り方を考えることが出来た。指導者ではなく支援者であれるように、子どもの自己決定を促す、自己決定をさせる場を作って判断力を養う、自己決定に対して評価・価値付けをすることを意識して、前期後半からも子どもと頑張っていきたいと感じた。

よかった　　具体的なエピソードをたくさん聞くことができよかったです。どうしても正規のルートといいますか、正しい道に導いていこうとしてしまうので、いろんな方法やいろんな道があるよと教えてあげるために自分自身もたくさんの知識をつけていきたいと思いました。

たいへんよかった　　自分で決めたことはやる、やらせるがやりたくないことは今はしない。この言葉が印象に残りました。指導をついついしてしまうところだが、支援という視点で個に応じて工夫をし、家庭と連携をしながら信頼関係を築かないといけないと感じました。ありがとうございました。

たいへんよかった　　やらせようとしてもダメなので，その子が将来どうしたいのか，まず自分の事を考えさせて，その中で何をしなければならないのか，何なら今できるのかを一緒に考え，できる事があるのならば，それを支援していくことが大事だと学びました。

たいへんよかった　　不登校の子と関わることが多いですが、私も今まで、本人の選択を尊重する姿勢でした。今後も本人の自己決定を支えつつ、見通しを持つことができるような関わりができたらなと思いました。

たいへんよかった　　教師は子どもの居場所を確保し、常に支援者であること。待つことが大切であること。子どもはやることできることをする。今できないことは今はやらない。自己決定をする。私たちの支援が変われば、子どもが変わる。非常に有意義な学び

でした。

たいへんよかった　　「学校教育は、自尊感情を育み、自立のスキルを学ばせる場である」学校の価値はここにある。本当にそうだと思いました。この土台の上に、指導や支援はあると思います。もっともっと人生なが〜い目で子どもと語り合える時間を増やしていきたいですね。

よかった　　不登校の生徒に対して無理やり学校に来させるのではなく、学校に行かないことによる不利益をなるべく小さくするためのサポートが大切だということを学んだ。生徒の自尊感情を大切にして、できることと今はできないことを自分で判断させることが大切だということを学んだ。

たいへんよかった　　中学校の時の恩師だったので嬉しかったです。内容に関しては担任だったら必ずぶつかる問題なので参考になりました。

よかった　　不登校の問題は、学校に来ないことが不利益になることだと言うことに、納得しました。今の学校は、親も子も焦るシステムになっていると思います。休むことが罪悪感につながったり、世間から置いて行かれているような不安感に駆られている保護者も多いと思います。「できることをする。今できないことは今はしない」という言葉は本人が安心できるものだと思います。親もいかにこの言葉を受け入れ、本人への声かけに活かしていけるかが、二次障害を生まないことにつながるのではないかと思います。

よかった　　特に[待つことの大切さ]について学ぶことができました。私は生徒に叱るところが多いので、本人のいいところを伸ばし、自己存在感を高めることができるようにしていきたいと講話を聞いて感じました。

よかった　　今しないのであって将来しないわけではないというスタンスで不登校生徒に接していくことが大切だと再確認できました。

たいへんよかった　　「困り感」を持っている子どもの「困り感」に寄り添って、その子に応じた柔軟な対応ができるようにならなければならないことを痛感しました。

たいへんよかった　　生徒の一人ひとりに応じた対応が大切だと感じました。

たいへんよかった　　講師の経験を元にした具体的な事例や取り組みを紹介いただきこれからの支援の参考になりました。これからも不登校生徒の個に応じた支援について模索しながら取り組みを進めていきたいと思います。

たいへんよかった　　正しいことが、全て生徒に当てはまるというわけではない。手を替え品を替えて生徒に寄り添っていきたい。

よかった　　講話を聞いて、どのような場面でも私が私の意見を押し付けてしまっている場面が多いように感じました。子供にとって不利益にならないように、たくさんの情報を伝えた上で、意見を尊重していきたいし、選択させたいと思いました。まだまだ子供だからということではなく、自分の人生は一度からだということを支援者である私たち教員も考えて、助言していきたいと思いました。

たいへんよかった　　講話の中に、受け持つ生徒や保護者の姿と重なる場面がいくつ

もあり、今後の対応や支援に活かせるものが多かったと思います。
自己決定を大切にするにはこちら側にもそれを受け止めること、対応する方法の多様性をもつことも必要と感じました。
様々な子どもたちの事例を聴かせてもらい、先生との関わりで多くの生徒が自分の生きる道を自己決定し、模索しながらも進んでいったことを羨ましくもあり、目指す姿だと熱い気持ちにもなりました。
1週間後に再会する、まずは自分のクラスの子どもたちにどんな言葉をかけて、また一緒に過ごしていこうか楽しみになっています。
本日はありがとうございました！
よかった　　自分のクラスにも不登校の生徒はいるので、支援者としてこれからも関わっていきたい。
たいへんよかった　　不登校生徒について今まで「学校に来させないといけない」ということしか考えられておらず、その先を考えられていなかったと改めて思わされました。生徒が何に困っているのか何ならやる気を持って取り組めるのかそれらを見極め、こちらが適切なアドバイスをすることが大切であることを学びました。また、得意を伸ばすことを意識した教育も大切だと改めて思わされました。
よかった　　不登校は一人一人原因も対処法も違うので、今日のお話もその一つの事例として心に留めておき、まるのままマネしないように心がけたい。
たいへんよかった　　不登校になってしまっている子は本人の問題ではなく、周りの影響をよくも悪くも受けて結果的に不登校になっているということに気づかされました。教師として「これだけはさせなければいけない！」と思いやらせようとしていることも本人にとってはかなりのプレッシャーで不登校に繋がるので教師としての接し方は気をつけていかなければいけないと思ったと同時に、本人に今の自分には何が必要でどのようにしていけばいいのか、できることから始めて自分でやるべきことを見つけさせる働きかけが大事だと思いました。
たいへんよかった　　不登校というと、親の責任、学校の責任と何かしら原因について、白黒つけがちになってしまっていました。ついついこれまでの経験をもとに、転ばぬ先の杖で先回りし、あれこれ言ってしまう自分もいるなと、考えました。
実際に子どもがどうしたいのか、そのことを言える、選択できるような、安心できる場をどう作れるのかが、教師や学校の役割だと実感しました。そのためには、生徒をいかに理解し、言葉をかけたり、情報を伝えたりできるかは、教師にかかっているなと思います。
貴重なお話ありがとうございました。
よかった　　不登校が問題なのではなくて、学校に行かないことによって起こる不利益が問題なんだ。という言葉と、出来ることはする。出来ないことは今はしない。という言葉が印象に残っています。
できることをどんどんのばしてあげれるような支援をしたいです。

たいへんよかった　　先生のぶれない考えのもと、実践されていることに、感心させられ、参考になりました。

よかった　　支援者として、教師がどのように生徒と関わりを持つのか、実践例を交えながら話をしてくれたのでとてもわかりやすかった。学校に行くことの利点があることは前提においた上で、不登校の生徒に対して、学校に行けない際に発生するデメリットをいかに埋めていくかが大切とのことだった。これからさらに多様化していくであろう現場では、個に応じた指導が重要である。それぞれで抱える課題や環境は異なるので、従来の統一した全体指導ではなく、それぞれの生徒の現状から何に取り組んでいくのか、それぞれに目標設定する必要性を感じた。今出来ないことは今はする必要はない。ただ、できることはがんばらせる。そのために必要な手助けや支援を周りの大人がするという言葉がとても納得できた。海外の野球コーチの例はとてもわかりやすかった。選手が課題に直面し、アドバイスを求めてきた時に応じるという考え方は、当人が学びたいという内発的動機づけに基づく行動なので、努力につながると思う。今までの指導実践を振り返ってみて、生徒が必要としていない状況でよく教えたり、制限したり、怒ったりしていたと思い、考えさせられた。生徒が学ぶ必然性を感じさせられるように周りの大人がいかに仕掛けを施すか、また我慢ができるかが大切と思った。新たな視点の出会いとなり、とても勉強になった。

たいへんよかった　　不登校生徒の何が問題かと聞かれて、これまでは明確に答えることはできなかったが、学校に来ないことで生まれる不利益が問題と言われてなるほどなぁ。と思った。この言葉は、そのまま本人や保護者との関わりの中で伝える言葉として使えると思うので、そこを念頭に置きながら、次年度以降の対応の糧にしたいと思った。

よかった　　不登校の子たちはそれぞれに困り感があります。その困り感を少なくしていくために、本人にできることを自分で考えさせ、自分でできることを決めていくことがとても大切だと思いました。

よかった　　不登校の考え方がとても参考になりました。

よかった　　不登校問題で中々、進展しない場合の心構えとしては有効であったと思います。しかし、全ての保護者がその考え方に賛同してもらえるとは限りません。人数が増えると担任１人で抱えるのにも限界があります。不登校でいることを悪と捉えない社会の実現を望みます。

よかった　　不登校の問題は学校に来ないことではなく、行けないことでの不利益であるということは本当にそうだと思いました。また、講演の中で話されていた自分で決めて、できることをさせるというのが印象に残りました。不登校の生徒だけでなく、どの生徒に対しても、どう関わり支援していくか考えていきたいと思います。

よかった　　不登校生徒に対して、教師からの押し付けではなく、それぞれに合った支援を行い、その子自身に選択させていくことが大切だとわかった。

たいへんよかった。「不利益がないように」この言葉がとても印象に残りました。生きてい

く力をつけなければと力がはいっていた今までの指導を反省しました。生徒の実態に合わせた言葉かけや働きかけを心がけたいです。先生のように子どもの気持ちを上げていけるような先生になりたいです。ありがとうございました。

たいへんよかった　　今までの自分の価値観を見つめ直す、大変貴重なお話をいただけだと思いました。生徒との関わりをもう一度見つめ直し、生徒の自己選択、自己決定を大切にしていきたいです。

よかった　　不登校の生徒に対するアプローチの仕方について考えた。今まで、生徒の話を聞きながら、「あれをしてみようか」、「これをしてみようか」と選択肢を与えていた。そこには、生徒が出来ることやしたいことが抜けていたように思う。こちらが、選択肢を持ちつつ生徒のしたいこと、出来ることに寄り添いながら、生徒自身が自己決定出来るようにして、社会で生きていけるようにしていくことも大事だと思った。

たいへんよかった　　決まりきった答えや指導ばかりになっていないかを振り返りました。その生徒にあった指導や言葉かけを考えて行っていきたいと思います。ありがとうございました。

たいへんよかった　　今までの自分を振り返り、支援者としての指針をいただけました。本当にたくさんの学びがありました。今後に生かしていきます。ありがとうございました。

たいへんよかった　　私が担任をしているクラスにも不登校の生徒がいるので、何かその子たちへの不利益を少しでも小さくする方法はないかと考えながら聴かせていただきました。何か支援したいけど、学校に来ないからあまりなにもできないと感じていたのがこれまでの本音です。しかし、学校に来ることではなく本人が自分で目標を立てて取り組もうとすることを評価し、次につなげられるような支援をしていくことが大切だと改めて学びました。

よかった　　困り感をかかえた子どもは何年増えていっていると思うので様々な機関と協力していきたいと改めて思いました。

たいへんよかった　　木村さんの講話を聞いて、私は特別支援学級の担任をしていて、不登校が一名、不登校兆候が 2 名います。不登校の子は、将来したいことがあって、学校外で自分がしたいことをしていて、いいと思うのですが、不登校兆候の子は、たまに学校に来ているので、家にいる(学校にこれてない)時は何もしてない状況です。
それぞれ好きなことはあるのですが、将来のことはあまり考えれてないので、しっかり話してこれからについて考えて行きたいです。

たいへんよかった　　教師側のスタンスを明確にしていただいたと私は思います。うまくいくことも、うまくいかないこともあるけれど、本人の人生なので、自分で選択できるように「支援」していけるよう、いろんな引き出しを持っていたいと思いました。特に、保護者と共通理解を持つことは大切でとても大変なことだと思いました（経験も含め）
また、午前中の事例検討会の内容とこの話は本当につながっていると感じました。